

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	統括部局：教務機構	担当部局：教務機構
大項目	6 教育内容・方法・成果 《全学的な視点》	
中項目	6.2 教育課程・教育内容	
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)	
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)	

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 共通学士力に係る施策を推進する組織を設置する。	→新組織「共通教育センター(仮称)」の設置	A	A	A	A	A
2. 全学開講科目として提供している各種授業科目群を全学共通プログラムとして再編し、学内外に明示する。	→共通教育科目群の体系の明示	C	C	B	A	A
3. 全学共通プログラムに初年次教育科目群を新設する。	→初年次教育科目群の体系化	C	B	B	A	A
4. 共通教育、専門教育についてカリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップを提示し、学習の道標とする。	→カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップの作成	C	C	B	B	B
5. MDS、ジョイントディグリー制度の改善を図り、MDS修了者数及び二学位取得者数を増加させる。(目標6、7に修正)	→MDS修了者数を1.5倍、及び二学位取得者数を2倍にする。	C	C	/	/	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
6. MDS制度の改善を図り、MDS修了者数を1.5倍にする。(目標5より修正)	→MDS修了者数	/	/	C	B	B
7. ジョイント・ディグリー制度の改善を図り、二学位取得者数を2倍にする。	→ジョイント・ディグリー制度による二学位取得者数	/	/	C	B	B

☆

##### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2010年4月に教務部(現、教務機構)に共通教育センターを開設した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 共通教育センターにて、全学科目も体系化、再編を行った。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 共通教育センターとしての機能・役割の再確認と組織の見直しを行う。	☆
		その他	☆

目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 共通教育センターにて、全学科目の体系化・再編を行うとともに、カリキュラム・ポリシーも設定し、パンフレット作成、ホームページでの紹介を行い、入学後のオリエンテーション等を通じて、新入生に全学科目の周知を行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 全学科目の認知向上につながった。特に、目標3に記載の初年次教育科目については、効果的な周知方法となった。なお、履修者総数については、科目開講の年数制限や整理、目標3記載の新規科目開講を行ったことにより、特徴的な変化は見られない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か オリエンテーション等での広報、新入生配布冊子を通じて、科目紹介を引き続き行う。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 共通教育センターにて素案を検討のうえ、教務委員会に諮り、2011年度から「スタディスキルセミナー」、2013年度から「グローバルキャリアデザイン入門」等アクティブラーニングを取り入れた新たな初年次教育科目を開講した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 「スタディスキルセミナー」は4種類開講し、2012年度は20クラス533名、2013年度は20クラス534名、「グローバルキャリアデザイン入門」は2013年度12クラス486名の履修者となり、定員をほぼ満ち、学生には非常に好評である。結果として、アクティブラーニングを積極的に取り入れた新たな初年次教育科目開講により、能動的、自主的な学修方法を学んだ学生を輩出している。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 共通教育センターにおいて、引き続き、本学の初年次教育科目の充実と改善を図っていく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか カリキュラムマップは、学部教育の専門科目において2011年度に全学部が作成した。また、FD推進の観点より、各学部においてナンバリングの取り組みを推進しているため、カリキュラムツリーの策定には踏み込んでいない。なお、ナンバリングは、2013年度末時点では法学部、経済学部、国際学部の3学部、その他国際教育・日本語教育プログラム室科目で一部導入済み。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か カリキュラムマップは全学部が作成したが、学部間にて内容にバラつきがある。課題としては、DPとの整合性を検証していく過程でその高度化を全学的に統一して進めていく必要がある。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か カリキュラムマップは引き続き検討。神学部、商学部でのナンバリングの検討(2015年度より導入予定)、同志社大学、立命館大学での進捗状況・内容を踏まえて全学レベルでの体系化を検討・提案する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標5		<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 目標修正</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 目標修正</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 目標修正</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆

目標6	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 文部科学省平成23(2011)年度「大学の世界展開力強化事業」のタイプB「米国大学等との協働教育の創成支援」採択による「日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム『クロス・カルチュラル・カレッジ』」にて、2012年度以降入学生(理工学部生を除く)を対象にMS特別プログラムを開始。その他のプログラムは制度変更なし。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度登録者191名(秋開始分61名、2014春開始分130名)であった。2012年度は172名、2011年度は129名、2010年度は86名であり、本計画期間内に大幅に増加した。一方で修了者は2010年度23名、2012年度28名、2013年度25名と増加していない。単位数不足等による修了不可もあるが、MS登録者への履修単位制限緩和の影響の有無調査が課題である。なお、2011年度より大幅に増えた登録者が修了の時期を迎えるのは、2015年3月である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か スーパーグローバル大学等事業の関係で、採択となった場合に大幅なカリキュラム等の変更が必要となる。不採択となった場合には、制度の検証を行う。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標7	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 各学部にて、同制度による編入学制度を検討するとともに、早期卒業制度の導入を検討してきた。この結果、2013年度編入学試験から国際学部、2014年度編入学試験から神学部が同制度に係る4年次への編入を導入した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度同制度による編入学試験合格者は14名、同制度により二つめの学位取得者は12名と、2012年度より微増した。2011年度より増加しているMS登録者がマルチプル・ディグリー制度による編入学試験を受験し、二つ目の学部を卒業する2015年3月以降に成果が見えてくる予定だが、さらなる目標達成のためには、本制度による編入学試験を実施する学部および3年早期卒業制度を導入する学部を拡大することが引き続き課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 上記に記載のとおり、本制度による編入学試験を実施する学部および3年早期卒業制度を導入する学部を拡大する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆